

マニラ日本人学校 合同研究会

報告及び情報交換会

講評 AG5 研究員 市川 昭彦

本日は、台北・台中そしてマニラ日本人学校の3校の実践発表がZOOMという媒介を通して多くの地域と繋がり、情報を交換し合い、お互いに高めあう素晴らしい機会となりました。このことは、「これからの日本人学校における日本語指導のあり方を示す起点の日」と言えるでしょう。

発表された3校それぞれに共通していることは、AG5の基本理念である「国際社会にて中心となる人材を日本人学校という環境で学ぶ機会を生かして育てていく」を強く意識して取り組んでいることです。

まず第一にあげられることは、組織として学校全体での計画的な実践です。組織力による取り組みの必要性がよく伝わってきました。

次に、実践にあたり実態把握に努めたことがあげられます。日本語能力測定ツール「DLA」を活用して児童生徒の日本語能力を、観点ごとに把握し、指導の観点を明確にして実践に取りかかっていることです。

さらに、日本語の補充だけではなく、JSLカリキュラムに基づく教科指導を通して、在籍学級の教科指導の先行学習の有効性に気づき実践を重ねていることです。また、この実践の中では、日本語と教科との統合型やICT等を活用した視覚化等、様々な支援方法の工夫を重ねていることもあげられます。

これらのことは、児童に学ぶことの楽しさを味わわせ、意欲を引き出すことになり、AG5の基本理念に迫る児童生徒の育成へと繋がっていくことと確信しております。

繰り返しとなりますが、本日は日本語指導の起点となる研究会となったことに対して携わった皆様に敬意を表し、講評とさせていただきます。